

「かわまちづくり」計画の変更について

平成 28 年 12 月 19 日

盛 岡 市

市町村及び河川の概要

1. 市町村の概要	
①都道府県名	岩手県
②市町村名	盛岡市
③人口	293,221人(平成28年8月末現在)
④面積	886.47km ²
⑤市町村の特色	<p>盛岡市は岩手県の中央部に位置しており、市内中心部を流れる北上川・中津川の合流点に位置した丘陵地を利用して、南部信直が慶長年間に築城(寛永10年(1633)完成)した盛岡城を中心に栄えた城下町である。</p> <p>市の北西部には「南部片富士」の愛称で親しまれる岩手山(標高2,038m、十和田八幡平国立公園)があり、その周辺には温泉、スキー場、小岩井農場などの観光地や景勝地を有する。首都圏と盛岡を結ぶ東北新幹線では、東京から約130分、仙台から約40分という利便性の良さもあり、年間約509万人の観光客が訪れる。また、平成9年に秋田新幹線が開業、平成22年には東北新幹線が新青森まで全線開業、さらに平成28年3月には北海道新幹線の開業で新青森から新函館北斗までつながり、東北の交流拠点都市として発展している。盛岡市内には「わんこそば」、「盛岡冷麺」、「盛岡じゃじゃ麺」といった盛岡三大麺の店が約50店舗立ち並び、また越後丹波に並ぶ日本三大杜氏の一つである「南部杜氏」の里として「地酒」も人気があり、盛岡の味を目当てに多くの観光客が訪れている。</p>
2. 市町村内の河川の概要	
①主な河川	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川 (一級河川北上川水系、流域面積(水系全体10,150km²、市内886km²)) <p>北上川は、岩手県岩手郡岩手町御堂にその源を発し、幾多の大小支川を合わせて岩手県を南に縦断し、岩手・宮城県境の狭窄部を経て、宮城県石巻市で太平洋に注ぐ、幹川流路延長249kmの一級河川である。</p> <p>江戸～明治初期までは盛岡から江戸、仙台へ向けた舟運による交通・輸送により沿川地域が発展し、現在では毎年約1,000艇が参加する「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」や「盛岡舟っこ流し」、「花火大会」等が行われ、盛岡市内においても多くの人が北上川へ訪れる。</p> ・中津川 (一級河川北上川水系、流域面積(河川206.5km²、全域盛岡市内)) <p>中津川は、盛岡市の東南部の安部館山(標高1218m)を源流に、盛岡市中心部を流れ、北上川に合流する、幹川流路延長22.8kmの一級河川である。</p> <p>かつては、盛岡城の西側を流れる北上川とともに、東側を流れる中津川は天然の要害として外堀の役割を果たし、古くより城下町の用水や山間部からの薪材の輸送に利用されていた。また古くから中津川はアユ、ウナギ、ヤマメなどが豊富で、川漁も盛んであり、現在でも秋には天然のサケが遡上することで有名である。</p> <p>今日では、豊かな自然と、明治43年の大洪水を機に整備が進められた石積護岸とを合わせた良好な景観を形成し、その周辺には歴史的建造物や史跡が多く存在し、清らかな中津川の流れは「平成の名水百選」に選ばれるなど市民にも親しまれ、観光資源にもなっている。</p>
②河川と市町村や民間事業者との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・北上川、中津川は、盛岡市の中心を流れる河川として、小学校の校歌にも名称が出てくるなど、沿川地域から親しまれており、地域住民の憩いの場となっている。現在でも、各地先においてボランティアによる清掃活動、イベント、祭り、釣りなどに活用されている。 ・近年、河川敷地で営業活動を行う「中津川納涼棧敷プロジェクト実行委員会」や「盛岡駅前東口振興会」などの活動が見られるようになってきている。
③これまで実施済みの関連施策	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡地区水辺プラザ(一級河川北上川水系北上川、中津川、H4～14) <p>北上川、中津川にて地域活動や環境学習の拠点となる水辺プラザ3箇所(三川合流点地区、津志田地区、山岸地区)とこれらを結ぶ散策路を整備。具体には、河川管理者が護岸や散策路の整備を行うとともに、盛岡市では地域交流の拠点(プラザおでつて)、河川公園等を整備。</p> ・お城を中心としたまちづくり(H21～) <p>盛岡城跡公園周辺の観光拠点となる「もりおか歴史文化館」、中津川や盛岡城跡公園と一体となったまちなか観光を実現する「ビクトリアロード」を整備。</p>

もりおか歴史文化館



ビクトリアロード



・もりおか町家物語館（H26）

盛岡市の保存建造物である「浜藤の酒蔵」などを改修した「もりおか町家物語館」が、平成26年7月に開館。盛岡町家の歴史的な景観との調和を図るとともに、市民の交流の場を提供。地域住民との協働により、鉦屋町・大慈寺地区の中核施設として地域の情報を収集・発信する施設。



・橋説明看板（H20）

主要な橋の名称とその由来などを記した看板を、各橋の下部に設置。



高橋にある擬宝珠は、かつて南部氏十二代政行が在京中に加茂川の橋の擬宝珠を写す許しを得て備前三戸城に取り付けていたものである。1609年南部氏27代利直が城下町盛岡の整備で上の橋を築いたときこの橋所に移された。
現在の橋は1935年開設。長さ54.0m、幅員12.04m

説明文（拡大）

・木伏緑地（H28）

北上川・開運橋上流側右岸にある木伏緑地を、H28年度いわて国体の開催を期に改修。北上川に面した広場空間も整備され、地域住民による各種イベントなども開催される場となっている。



④市民や民間事業者の河川利活用状況

北上川、中津川は日頃より散策等に利用され、中の橋下流河川敷では、サケの放流会、伝統行事の「チャグチャグ馬コ」他、四季を問わずたくさんの行事やイベントが開催され、多くの市民、観光客に利用されている。また、イベントや清掃活動などには、地元の団体、小中高校生などの地元住民が率先して実施するなど、地元が主導となった取り組みが行われている。

また、長年、河川敷で行われてきたイベント以外に、平成 27 年 7 月には、地元の企業等を中心とした「中津川納涼棧敷プロジェクト実行委員会」が中津川の中の橋下流の河川敷を利用し、「中津川納涼棧敷」を開催。平成 28 年 8 月には、地元商店会（盛岡駅前東口振興会）の手で北上川・開運橋上流右岸の木伏緑地（一部河川区域）において「木伏屋台村」を開催するなど、河川空間を活用した活動が活発化してきている。



サケ稚魚放流会（中津川・中の橋下流）



チャグチャグ馬コ（中津川・中の橋下流）



中津川納涼棧敷（中津川・中の橋下流）



木伏屋台祭（北上川・開運橋上流）

盛岡市における地域整備構想としては、まちづくりの基本となる「盛岡市総合計画 ～ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡～」([基本構想]平成27年度策定、計画目標年次：平成37年)があるとともに、観光については「盛岡市観光推進計画」(平成26年度策定、計画目標年次：平成31年)がある。また、緑のマスタープランや花と緑及びオープンスペースに関する総合的な指針として、「緑の基本計画」がある。(平成13年度策定、計画目標年次：平成33年)そして、総合計画にも位置づけられている盛岡ブランドについては、「第二次盛岡ブランド推進計画」がある。(平成26年度策定、計画目標年次：平成31年度)

「盛岡市総合計画」では、まちづくりの基本目標として「ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡」を掲げ、「盛岡の魅力があふれるまちづくり」、「人が集い活力を生むまちづくり」といった都市像を目指しており、「地域に受け継がれている歴史・文化の継承」、「盛岡ならではの魅力や価値である『盛岡ブランド』の展開」、「自然環境と歴史環境とが調和した盛岡らしい魅力ある景観の形成」そして「地域資源を活用した観光地域づくり」などが施策として位置づけられている。

「盛岡市観光推進計画」では、「多くの人々が訪れ、盛岡ファンが世界に広がる観光交流都市」をテーマに掲げ、盛岡市における観光の基本目標を『歩いて楽しむまち盛岡』の魅力をもっと多くの人に知ってもらい、「盛岡の魅力をもっと多くの人に体感してもらい、満足してもらい」、「盛岡ファンを世界に広げ、交流を拡大する」とし、具体的なアクションプランを実施する計画が策定されている。

「緑の基本計画」においては、「緑が文化になるまち盛岡」とし、盛岡らしい緑を確保するために、量、質、連続性の観点から取り組みが必要であることを意識し、緑の保全や創出のあり方を策定している。あわせて、中心市街地における水辺の緑は、潤いのある環境を形成する貴重な資源であり、河川敷や水辺を活用した親水空間や散策路の活用と共に、今後も水辺レクリエーション(緑の文化)の場としての活用が望まれている。

「第二次盛岡ブランド推進計画」では、主要事業の柱として、1.自然と暮らしの物語、2.暮らしと伝統の物語、3.先人と文化の物語、4.人と人を紡ぐ物語の4項目を掲げている。この中の「1.自然と暮らしの物語」では、中津川景観整備、北上川ゴムボート川下り大会の実施、清水・湧水の活用、川沿いの景観の保全、などの事業があり、市街地を流れる中津川、北上川を活かす事業となっている。

盛岡市のまちづくりは、北上川と中津川が合流し丘陵に囲まれた地に築城したことから始まっており、中心市街地は北上川、中津川沿いに形成されている。

これらの河川は、市街地を流れる川でありながら豊かで美しい自然を有し、石積護岸が街の景観を形づくっており、盛岡市のシンボル、貴重な観光資源になっている。

また、河川空間においては、盛岡市の観光の目玉とも言えるイベントが行われており、郊外の四十四田ダムから中心市街地に向かって約1,000艇が川を下る「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」、約12万人が訪れる「チャグチャグ馬コ」などが行われている。

水辺の利活用に関しては、盛岡市で平成20年度より進めている「お城を中心としたまちづくり計画」において、「ビクトリアロード」が整備され、隣接する中津川の自然及び石積景観や河川敷内の通路を観光資源の一つとして活用している。

また、盛岡城跡に隣接して平成23年7月に開館した「もりおか歴史文化館」を観光の拠点と位置づけ、拠点施設から中津川までのオープンスペースを一体的に活用することで、新たな賑わいの場の創出が期待される。そして、平成26年に鉤屋町で開館した「もりおか町家物語館」は、新たな観光ネットワークの形成が期待される。

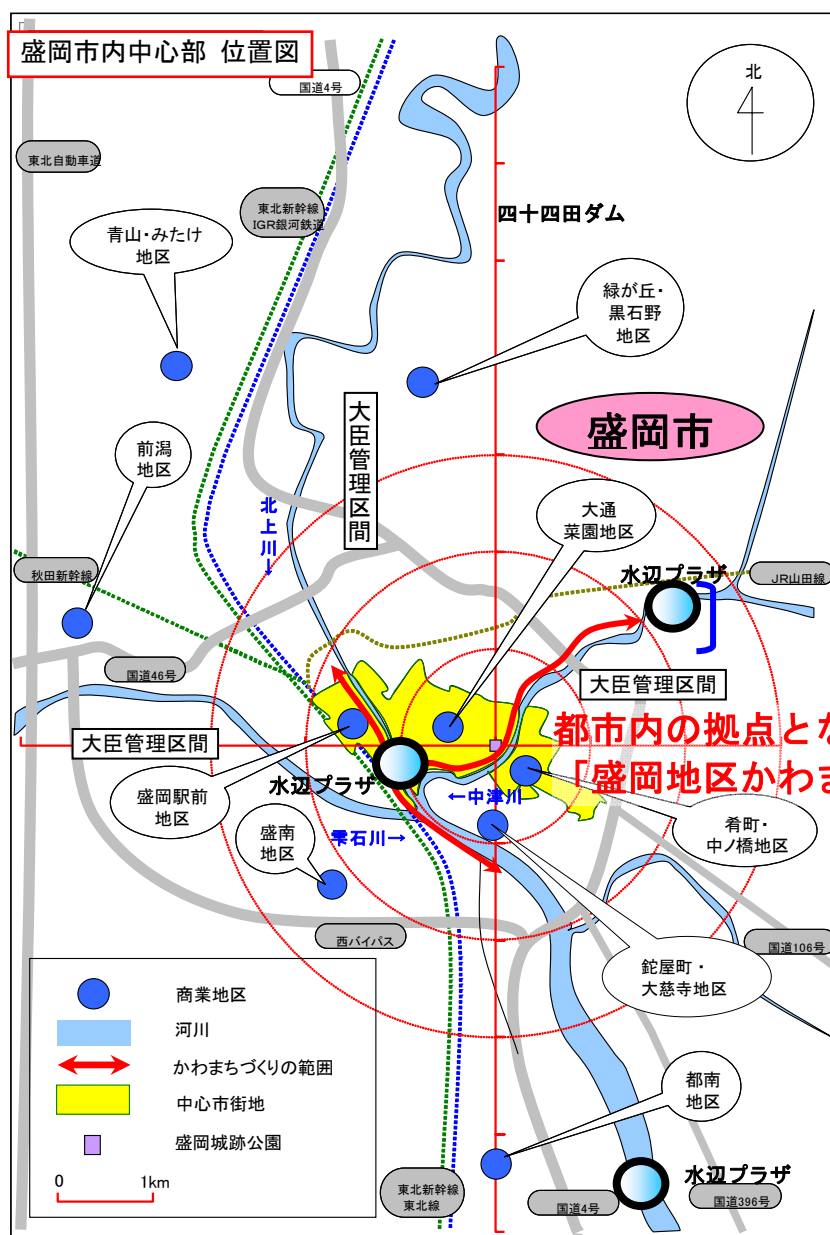
さらに、盛岡市の玄関口である盛岡駅から観光拠点・観光資源へのアクセスについては、北上川、中津川の水辺空間や木伏緑地を活用することで、「歩いて楽しめるまちなか観光」を推進することとしている。

このように北上川、中津川は、盛岡市のまちづくりを行う上で不可欠な存在であり、これらの河川並びに隣接する盛岡城跡公園(史跡盛岡城跡)を中心としたまちづくりにより、観光振興を推進するものである。

水辺とまちづくりに関する基本方針



図 盛岡都市圏広域図



1. 河川名
① 北上川水系中津川 ② 北上川水系北上川
2. 施策の実施範囲
① 中津川 中の橋下流地区 ② 北上川 開運橋上流地区
3. 施策の概要
① 中津川 中の橋下流地区 ② 北上川 開運橋上流地区 ・ 河川敷占用許可準則の特例措置により河川敷の規制緩和を実施し、水辺の賑わいを創出する。 (「盛岡城跡」及び「もりおか歴史文化館」(平成23年度完成)、「木伏緑地」を観光の拠点と位置づけ、拠点施設から中津川・北上川までのオープンスペースを一体的に活用し、イベントの機材や店舗施設等の占用許可に配慮。)

(参考) 位置図



中の橋下流河川敷を利用した年間行事

- ・ 2月上旬 もりおか雪あかり
- ・ 3月上旬 さけの赤ちゃん放流会
- ・ 4月下旬 盛岡市消防演習
- ・ 5月上旬 アユの稚魚の放流会
- ・ 5月下旬 ヤマメの稚魚の放流会
- ・ 6月上旬 大盛岡神輿祭
- ・ 6月上旬 チャグチャグ馬コ
- ・ 6月下旬 盛岡親と子の写生大会
- ・ 7月上旬 アユ釣り教室
- ・ 7月中旬 あわしまこんせい祭
- ・ 7月下旬 もりおか中津川めぐみ感謝祭(オープンカフェ)
- ・ 7月下旬 中津川納涼棧敷
- ・ 8月下旬 どんど晴れ中津川
- ・ 9月中旬 盛岡八幡宮祭
- ・ 9月下旬 くずまき高原牧場まつり
- ・ 10月上旬 ウッドウェアINもりおか
- ・ 10月中旬 盛岡農業まつり
- ・ 12月上旬 岩手の鮭まつり



中津川納涼棧敷(中津川・中の橋下流)



木伏屋台祭(北上川・開運橋上流)

開運橋・旭橋周辺の河川敷等を利用した年間行事

- ・ 6月中旬 川守稻荷神社・荒神社例大祭(河川敷地)
- ・ 6月下旬 えきいき沿線特産市(河川敷地、～H27)
- ・ 7月下旬 北上川ゴムボート川下り大会
- ・ 8月上旬 木伏屋台祭(木伏緑地)
- ・ 8月上旬 国体応援フェスティバル(木伏緑地、H28)
- ・ 9月下旬 えきいき沿線特産市(木伏緑地、H28～)

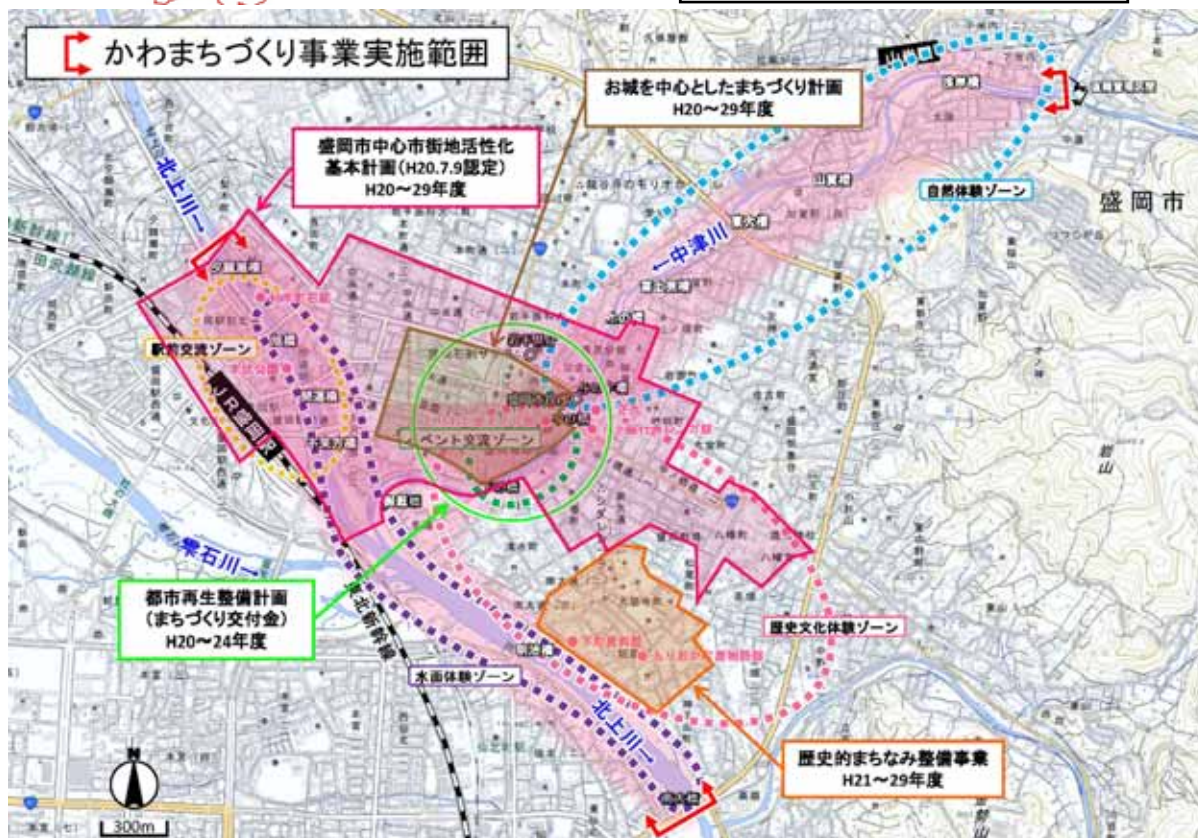
支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名	
①	北上川水系中津川
②	北上川水系北上川
2. 整備範囲	
①	中津川（北上川合流点～水道橋, L=4.3km）
②	北上川（南大橋～夕顔瀬橋, L=3.4km）
3. 整備内容	
①	北上川、中津川 盛岡地区：盛岡地区かわまちづくり
・	盛岡市街地の観光拠点となる盛岡城跡、もりおか歴史文化館（平成23年度完成）の周辺地区整備にあわせて、隣接する中津川と一体となったオープンスペースを整備することで、賑わいの場を創出する。また、盛岡市が実施した、北上川明治橋下流の「もりおか町家物語館（平成26年度）」、北上川開運橋上流の「木伏緑地再整備（平成28年度）」に合わせ、河川空間と一体的な整備・活用を促進し、さらなる賑わい創出を図る。
・	観光客が盛岡駅から北上川、中津川の散策路ルートを利用して、まちなかの観光施設にアクセスしやすくするための散策路、坂路、階段、案内標示板を整備。
・	まちづくりを行う上での景観上及び利用上の障害となっている中州及び樹木について、撤去（高水敷整正含む）及び伐採を行うことで、その解消を図る。
・	地元で計画している舟運による新たな賑わい創出について、今後の実証実験により運行区間、運営体制等の検討を行い、親水護岸・船着場の整備を行う。

(参考) 位置図

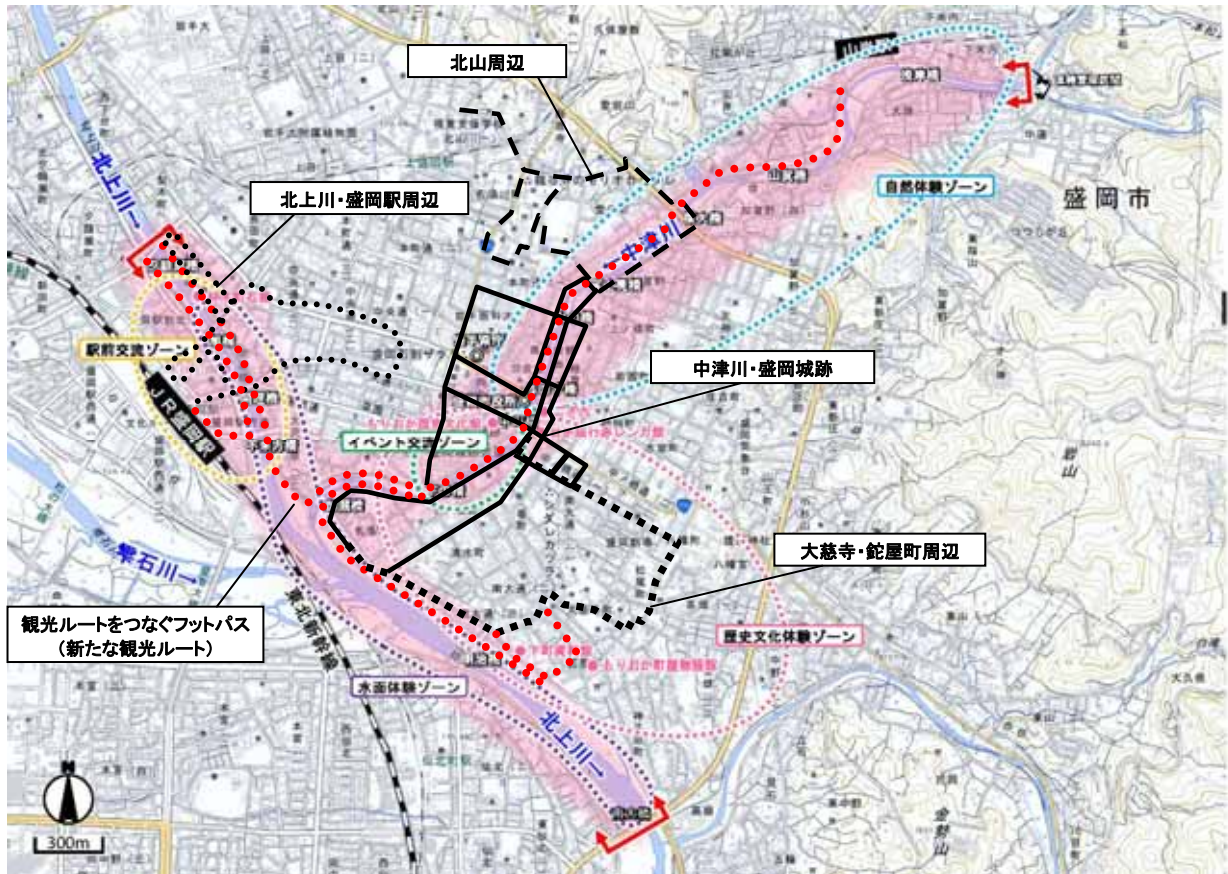


整備内容
○散策路(フットパス)
○緩傾斜坂路
○石積階段
○案内標示板
○親水護岸
○オープンスペース整備
○中州の撤去・樹木伐採
○親水護岸



3. 整備内容 (つづき)

「歩いて楽しむまち盛岡」観光・散策ルート



- 「中津川・盛岡城跡」散策ルート
- 「北上川・盛岡駅周辺」散策ルート
- - - 「北山周辺」散策ルート
- 「大慈寺・鉞屋町周辺」散策ルート
- 観光ルートをつなぐフットパス (新たな観光ルート)

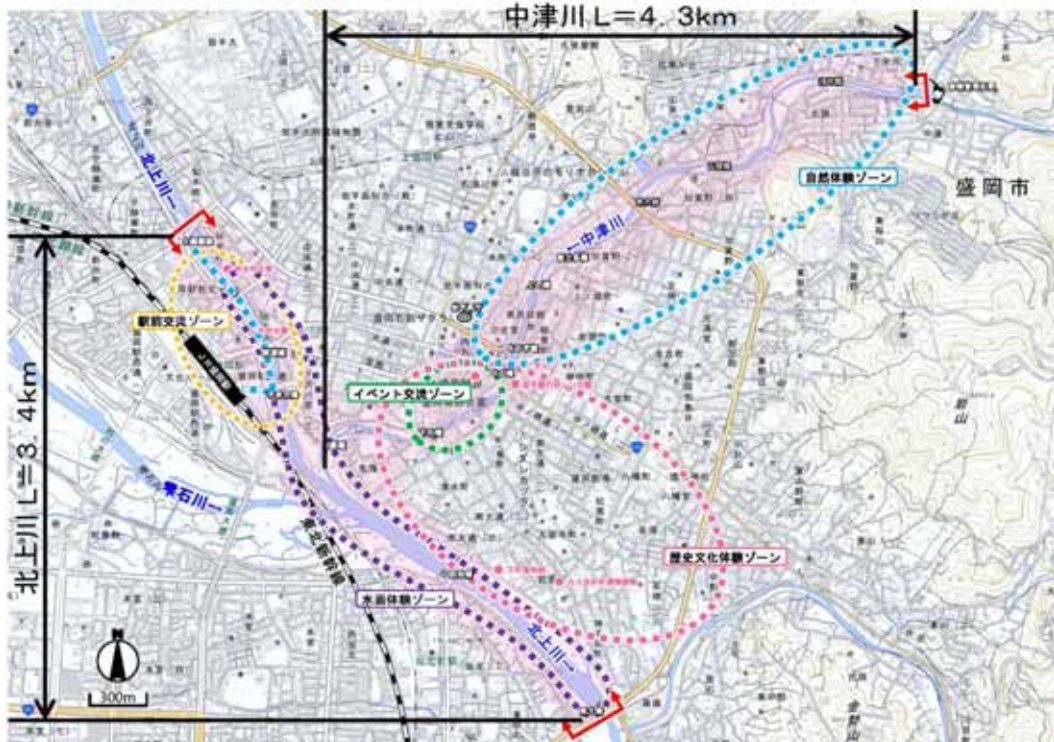
ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

盛岡地区かわまちづくり

2. 整備概要

○整備箇所（位置図）



○整備概要（整備箇所図）



凡例	
	石積階段
	親水護岸
	緩傾斜坂路
	案内標示板
	自然護岸・捨石
	中州撤去
	フットパス
	石積護岸

2. 整備概要 (つづき)

○整備のイメージ (散策路 (フットパス))



散策路設置前



散策路設置後



散策路利用状況

○整備のイメージ (案内標示板)



河川空間では避難誘導が可能な案内標示板を設置

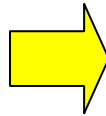


平成 27 年度に盛岡市で堤内地側に設けた河川への誘導案内(河川の歴史的な情報を提供し河川へ誘うために設置)

○整備のイメージ (石積階段)



石積階段設置前

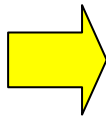


石積階段設置後

○整備のイメージ (中州撤去)



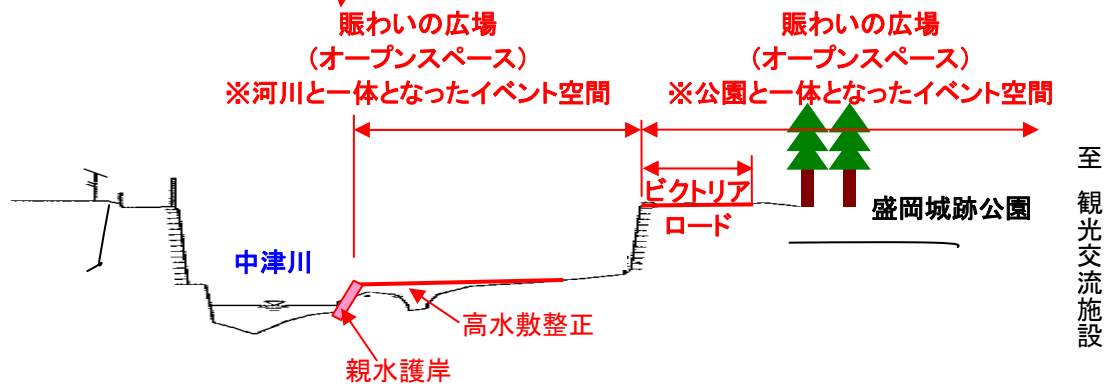
中州撤去前



中州撤去後

2. 整備概要 (つづき)

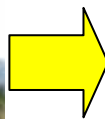
○整備のイメージ (オープンスペース整備) 整備済



○整備のイメージ (石積護岸)



整備前



整備後

○舟運のイメージ



広島県・太田川における雁木タクシーの事例

3. 整備の必要性、有効性

整備予定箇所は、JR盛岡駅に隣接し、盛岡市の中心市街地を流れる北上川、中津川である。

この地区では、平成 20 年より「お城（盛岡城跡）」をシンボルイメージとして盛岡城跡公園及び周辺地区を観光の拠点として位置付け、まちづくり交付金事業等による「もりおか歴史文化館」「もりおか町家物語館」による歴史文化・観光交流拠点施設の整備、及び周辺地区の整備を優先的に行っているところである。なお、中津川は盛岡城築城当時から自然の要害として外堀の役割を持ち、中津川の自然・石積景観とお城が一体となった風情・景観を形成している。しかしながら、盛岡城跡公園と中津川は、これまで個々に整備を行ってきたため、隣接していながら公園から水辺までの一連性を有していないことが課題であった。このため、盛岡城跡公園周辺と中津川の河川空間を一体的に整備し、観光拠点となる賑わいの場を創出する必要があることから、「まちづくり交付金事業」と「かわまちづくり事業」を連携して実施する必要がある。

また、盛岡市街地は北東北の玄関口として、年間 509 万人の観光客が訪れるが、郊外への大型商業施設の進出の影響等で、中心市街地の空洞化が進んでおり、中心市街地の活性化が急務となっている。

このため、良好な観光資源である北上川、中津川の河川空間を観光アクセスとしても活用することで、盛岡駅～盛岡市街地の観光資源を結び付け、盛岡市が進める中心市街地活性化事業（中心市街地活性化基本計画（平成 20 年 7 月 9 日認定））などのまちづくり事業との事業進捗及び効果発現の面からも相乗効果が期待できる。

北上川では駅前となる開運橋上流右岸の木伏緑地を、河川空間と一体的に再整備し、河川空間を利用したイベントが行われるようになってきている。また、駅前に大河川（北上川）がある特性や歴史的背景を踏まえ、市民らから舟運復活に向けた動きが出て来ている。

このように、かわとまちとの一体化を図る中で、市民から“さらなる河川空間の活用”を求める声が出てきている。

4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

中津川に隣接する中の橋下流地区については、まちづくり交付金事業が実施されており、当該事業との一体的な整備により、魅力的で賑わいのある水辺空間の創出を図ることができる。

(平成 年度)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	
事業主体：盛岡市 まちづくり交付金事業 (拠点施設、周辺整備)			事業実施														当初：破線 変更：実線		
事業主体：国土交通省 かわまちづくり事業 (拠点空間、散策路等)	設計	整備															モニタリング		

5. 推進体制

- ・平成 19 年度に盛岡を舞台としたテレビドラマ（NHK朝の連続ドラマ「どんど晴れ」）で、北上川、中津川が放送されたことを機に、行政や市民団体等で構成する「川を活かす協働ワークショップ」を計 5 回開催し、新たなイベント創出や中津川マップの作成を実施されている。
- ・「お城を中心としたまちづくり懇話会」について、年 1 回を基本に開催し、盛岡城周辺のまちづくり計画を推進。
- ・「かわまちづくり懇談会」「かわまちづくり勉強会」について、年 1 回～2 回を基本に開催。
- ・ソフト事業展開として平成 28 年度から討議テーマを決めた「ワークショップ」を開催。

6. 施設利用および維持・管理体制

①施設利用に関する計画

- ・ 盛岡城跡公園のスペースから中津川の高水敷スペースまでを一連的に整備することで、イベント規模の増大や新たな賑わいを生み出すイベントを実施する。(検討中)
- ・ 案内看板は、国土交通省と市とで役割分担を実施し、必要性が高い地点から順次設置。
- ・ 四十四田ダムからスタートする「盛岡・北上川ゴムボート下り大会」に合わせ、平成20年からは「中津川めぐみ感謝祭」のイベントを開催している。午前は「ゴムボート下り」、昼以降は「めぐみ感謝祭」で昼食等(特設のオープンカフェ)を食べ、川遊びする人もいるなど、かわまちづくりのイベントをタイアップして開催することによる相乗効果、満足度向上を図る。
- ・ 北上川にある既存の水辺プラザは、「ゴムボート下り」の中継・休憩地点、観客が眺望するためのスペース等として活用し、利便性の向上を図る。
- ・ かわまちづくりで整備された散策路(フットパス)を利用して、民間会社(JR東日本)が駅からハイキングを実施するなど河川空間が観光資源として活用されつつある。
- ・ 河川空間と一体となった木伏緑地では、地元商店会がイベントを実施し賑わいが生まれつつある。

②維持管理計画

- ・ 施設の維持管理については、各施設管理者が行う。国土交通省(護岸, 階段, 散策路(新設))
盛岡市(河川公園, 散策路(既設市施行分))
- ・ 日常的な施設管理, 清掃等については、市民団体との連携を図りながら、盛岡市を中心に実施する。

7. その他

盛岡市内を流れる北上川, 中津川と, 城下町としての歴史性を活かしたまちづくりを一体的に進めることで, 一貫性を持ったまちなか観光の推進を図るものであり, 拠点となる中の橋下流地区での賑わいの場の創出や, 水辺空間を活かした観光アクセス向上につながる整備を実施することにより, 地域の活性化を期待するものである。

また, 盛岡の玄関口となる盛岡駅地先に再整備された木伏緑地は, 地元商店会によるイベント会場として活用が活発化し, 地域づくりの拠点として期待されている。

都市再生整備計画(まちづくり交付金) H20～24年度

目的： 城下町盛岡の象徴である「盛岡城跡公園」を中心に歩いて楽しむ環境を創出し、人々が交流する賑わいのある市街地の形成を促進。

内容： 公園整備、観光交流センター整備、ビクトリアロード整備(市道)、歩道整備、旧町名由来板整備、案内板整備 等



ビクトリアロード

盛岡市中心市街地活性化基本計画 H20～29年度

目的： 中心市街地において、暮らしやすさや便利さを実感できる、賑わいと魅力あふれた地域として活性化を図るためのまちづくりを形成。

内容： 市街地循環バス運行(100円バス)、観光イベント、商店街イベント 等



盛岡都心循環バス

お城を中心としたまちづくり計画 H21年度～

目的： 城を中心として、人々が交流する賑わいのあるまちづくりを推進するとともに、城下町らしさにこだわったまちづくりにより、観光面での魅力の向上を図る。

内容： 観光バス駐車場整備、景観シンポジウム開催、各種の情報発信 等



盛岡城跡公園ライトアップ事業

橋説明看板設置(御厩橋～中津川橋) H20年度

目的： 中津川の高水敷を歩く観光客等に対して、現在の位置等をお知らせするため、橋脚に説明看板を設置。

内容： 説明看板11箇所設置



橋説明版

歴史的街並み整備事業なたや だいじじ（鉦屋町・大慈寺町界限地区）
H21～29年度

目的：盛岡の暮らし文化の中で独自の建築様式が編み出された伝統的な盛岡町家が連なる城下町の入口にある懐かしい街道沿いの風情ある街並みを再現させ、地域住民や都市観光客が盛岡の暮らし文化を体感しながら楽しめる地域として街なみ環境整備を図る。

内容：修景施設整備（街並みの連続性）、協議会の設置、コミュニティ防災センター整備、地域交流施設整備、集会施設整備、案内板整備 等



盛岡市鉦屋町

木伏緑地施設改修整備事業 H27～28年度

目的：JR盛岡駅から徒歩でアクセスできる開運橋の上流側右岸に位置する木伏緑地を、H28年度いわて国体を期に改修し、北上川に面した広場空間を拡大することで地域住民によるイベント開催や憩いの場などとして利活用を図る。

内容：園路広場、植栽 等



盛岡ブランド推進計画 H18～31年度

価値観を共有して、共に歩んできた「誇りと生きがいのあるまち」そして「選ばれるまち」を目指すために、盛岡ブランドの形成を推進している。

ブランドの形成の推進にあたり、「もりおか暮らし物語」(トップキャッチコピー)とブランド宣言文により、盛岡ブランドの方向性をより外に強く打ち出し、「人々が集まり・人にやさしい・世界に通ずる元気なまち盛岡」を目指している。

○ 盛岡ブランド宣言
(宣言文)



望郷の岩手山 麗しの姫神山
鮭が遡る川
歩きたいまちなみ
鮮やかな四季が彩る城跡
盛岡には 自然と暮らしの物語があります

伝統が生きる技と工夫のものづくり
南部杜氏の地酒
南部鉄器は用の美
清らかな水と大地の恵み
盛岡には 暮らしと伝統が培った物語があります

時代を先駆けた原敬・新渡戸稲造
時空を超えた啄木と賢治
数多くの先人の夢
暮らしをあやなす芸術と文化
盛岡には 先人と文化を紡ぐ物語があります

やわらかな盛岡言葉と人のぬくもり
盛岡には 人と人を紡ぐ物語があります

いにしえから現代 未来へ
脈々と続く盛岡の暮らしの中から生まれる
ひとつ ひとつの大切な物語

ようこそ
もりおか暮らし物語

その他特筆すべき事項（四十四田ダムとの連携）
盛岡・北上川ゴムボート下り大会について

盛岡・北上川ゴムボート下り大会は平成28年で40回目
むかえ、毎年県内外から約1,000艇が参加する、
盛岡市の一大イベントである。

競技は、四十四田ダム～南大橋までの約11kmを、
ゴムボート（2名1組）で下り、タイムを競う。

四十四田ダムでは、河川の流量が少ない場合に、放流
量を増加し、イベントを支援している。

平成27年の大会では、完走艇数および完走者数で
世界記録（ギネス）の認定を受けた。



スタート地点：四十四田ダム



北上川をゴムボートで下る様子



タイムレースのゴール地点：開運橋



その他特筆すべき事項（水辺プラザ(既設)の利用状況)

●水辺プラザ（三川合流地区）



北上川ゴムボート川下り



船着場の利用

●水辺プラザ（中津川・山岸地区）

中津川では各種イベントが行われている



チャグチャグ馬コ



中津川めぐみ感謝祭



もりおか雪あかり



水辺のオーブンカフェ



近隣の学校では、水生生物調査やロードレースに中津川を利用



親水護岸を利用した水遊び

●盛岡地区かわまちづくり懇談会

良好な水辺空間の創出により、賑わいの創出、観光の推進、地域活性化を図ることを目的に、学識経験者、商工観光関係者、市民活動関係者、行政機関等からなる「盛岡地区かわまちづくり懇談会」を1～2回／年開催し、かわまちづくりの進捗状況を確認するとともに、各種取り組みに関する意見交換を行っている。



●盛岡地区かわまちづくり勉強会

かわまちづくりにより整備される水辺空間において、実際に活用する地元町内会、観光協会、NPO団体等による意見交換の場として「盛岡地区かわまち勉強会」を1～2回／年開催し、活用における連携・調整及び維持管理等に関する意見交換を行っている。近年では北上川を200kmも遡上するサケを観光資源としたまちおこしに向けた取り組みを行っている。



●開運橋花壇

盛岡の玄関口である盛岡駅前の北上川（開運橋）では、市民団体による花壇整備が行われ、開運橋から望む北上川と岩手山、色鮮やかな花壇が一望できる風景は、盛岡を代表する景観、名所として、多くの市民や観光客に親しまれています。



開運橋から眺める北上川・岩手山・花壇



花壇の維持管理活動状況

●中津川オオハンゴウソウ駆除

盛岡市の中心市街地を流れる川でありながら多くの自然が残る中津川において、忘れな草やカキツバタなどの在来植物を、特定外来生物であるオオハンゴウソウから守るため、市民によるオオハンゴウソウ駆除活動が行われています。



オオハンゴウソウ駆除活動の様子